

会 議 録

会 議 名	令和元年度第4回山陽小野田市子ども・子育て協議会
開催日時	令和元年12月16日(月) 18時30分～20時05分
開催場所	山陽小野田市役所3階 第2委員会室
出席者 (敬称略)	伊藤一統(会長)、古豊和恵(副会長)、小林祥子、佐野太、 吉岡智代、松久邦雄、佐古幸恵、笹村正三、民繁深雪 草田和枝、有田光枝、塩田賢二(12名)
欠席者 (敬称略)	長谷川幸恵、村上敦史、綿貫志郎、柴田千明、阿座上修司、 平野強、古川努、篠原孝允(8名)
事務担当課 及び職員	子育て支援課 川崎浩美(部次長兼課長)、別府隆行(課長補佐)、 野田記代(保育係長)、野村豪(子育て支援係長) 健康増進課 古谷直美(健康増進係長)
会議次第	1 開会 2 議事 第2期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画の素案について 3 その他 4 閉会
配布資料	・第2期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画素案(資料1) ・個別事業の体系(資料2) ・地域子ども・子育て支援事業一覧(資料3) ・子ども・子育て支援新制度の概要(資料4)
傍聴者	なし
概 要	1 開会 ・協議会の公開について決定 ・部次長あいさつ ・協議会成立要件の確認 20名の委員のうち12名の委員が出席しており協議会は成立 2 議事 第2期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画の素案について 資料1から資料4までに沿って事務局から説明 【主な質疑】 (委員) 資料1の7ページ、「女性の就業率は5年間で低下しており、」とあるが、その原因は何と考えられるか。また、アルバイト、

パートはこの就業率に含まれているのか。

(事務局) はっきりした原因はわからない。平成22年も平成27年も有効求人倍率から見ると低調であり、社会全体として働き先がなかったことが伺える。平成22年度は0.62、平成27年度は1.21。令和元年7月は1.59という状況で、平成26年度に1を超えてから右肩上がりで上がっている状況。これに伴って保育需要も増えていると実感している。また、アルバイト、パートはこの就業率に含まれている。

(委員) 資料1の11ページ、「就労への意欲がうかがえます。」とあるが、意欲はあるのに就業率が下がっている。原因を探って対応する必要があるのではないか。

(事務局) 市では、平成27年度から子育て女性等就職応援事業に取り組んでいる。

(委員) 資料1の12ページ、就労意向(資格保持者)のグラフで無回答の割合が49.2%で、30人が無回答である。無回答の人数が多いのではないか。

(事務局) ニーズ調査の設問の仕方を次回からはもっと分かりやすくし、答えやすくする。

(委員) 資料1の13ページ、一時預かりの利用意向のグラフで、「利用したい」とその下の内訳との関係はどうなっているのか。これは複数回答になっているのか。

(事務局) 「どの目的で、何日必要か。」という問で複数回答になっている。

(委員) 資料1の14ページ、ファミリーサポートセンターの利用状況で、利用したことが無い人が1,204人いるが、その理由として「不安」、「仕組みがわからない」、「急に利用しにくい」等が上がっている。もっと利用しやすくできる工夫が必要なのではないか。

(事務局) 提供会員を増やすには、報酬の引き上げやボランティアポイントの付与を検討している。利用会員を増やすには、スマホアプリの活用を検討している。

(委員) 資料1の17ページ及び18ページにおいて、放課後児童クラブの長期の休業期間中は利用したいとの利用意向が多いがどのように対応するか。

(事務局) 現状小学6年生まで受入ができていないのが、高千帆、高泊、小野田、須恵、赤崎、厚狭の6クラブ。このうち高千帆については令和5年度から1クラス増室して6年生まで受け入れる予定としており、小野田は検討中である。そのほかについては、今後の児童数の推移を見ながら検討する。

(委員) 資料1の20ページ及び21ページ、「親子で安心して遊べる場所」、「子どもが安心して遊べる場所の整備」が重要としている割に不満が多い。何をどういうところを望んでいるのか。

(事務局) 求めているものの中身までは分からないが、就学前児童の保護者は公園などの身近な施設やスマイルキッズのプレイスペースの充実、小学生の保護者は商業施設やバスケットボールのコートやアスレチックがあるなどの特殊な公園の整備を望んでいるのではないかと推測している。

(委員) 資料1の22ページ及び32ページ、3歳未満児において提供量が不足しているとあるが、この事業計画にしっかりと対応をとる必要があるのではないか。

(事務局) 令和4年度開所予定で、山陽地区で保育所の再編を進めており、この中で定員を見直すなどし、対応を考えている。また、老朽化している日の出保育園についても、建て替えを含めて対応を検討している。

(委員) 資料1の32ページ、「保育士の潜在的人材を有効に活用するための施策の検討が必要となります。」とあるが、この計画のどの部分で反映されているか。または、この計画外で別途検討するのか。

(事務局) この計画上、どのような事業を行うのかについてははっきりとした記載はないが、計画期間中にどのような事業が実施できるのかについて検討する。

(委員) 資料3の一覧は何か。

(事務局) 子ども・子育て支援事業を抜粋してその概要をわかりやすく示したもので、参考資料として利用してほしい。

(委員) 資料1の25ページ、ファミリーサポートセンターの会員数の357人の内訳は。

(事務局) 依頼会員が286人、提供会員が42人、両方会員が29人

	<p>(委員) 資料1の30ページ、生活改善・学力向上事業の内容は。</p> <p>(委員) 朝学習にリズムやテンポを取り入れて脳を活性化しようという取組で、具体的には、大きな声を出したり、みんなで一緒に音読をしたり、計算をたくさんしたりしている。</p> <p>(委員) ファミリーサポートセンターの利用者に対して意識調査などを行っているのか。</p> <p>(事務局) 書面での意識調査は行っていないが、ファミリーサポートセンターのアドバイザーを通じて、利用者の意見、要望などを取り上げている。</p> <p>(委員) 提供会員と依頼会員の顔合わせなどは行っているのか。</p> <p>(事務局) 毎年、利用会員と依頼会員の交流会を開催している。</p> <p>(委員) 提供会員の形態は就労なのか、ボランティアなのか。</p> <p>(事務局) 有償ボランティアという形態で、具体的には1時間当たり、600円、土曜日・日曜日とか早朝とかであれば700円の利用料がかかり、利用会員が提供会員に利用料を直接支払うものである。</p> <p>(委員) ファミリーサポートセンター事業については、利用者が安心して利用できる仕組みづくりや事業の円滑な運用が難しいと感じている。全ての事業を拡充させることができれば良いが、現実的にそれが難しい状況の中で、子ども・子育て支援事業の中でも、取組に濃淡を付けても良いのではないかと感じているが、この事業を更に拡充させていくというのであれば、取り組み方法についての再考が必要と考える。</p> <p>(委員) 資料1の39ページにいきなり施策体系図が出てくるので、その前に簡単に説明文を付けるべき。</p> <p>(委員) 資料1の56ページ、「(1)」と「(2)」は「①」と「②」にしたほうが分かりやすい。</p> <p>(委員) 資料1の72ページ、「家庭環境、心身の障がいの有無等にかかわらず」の文言は不要だと思う。</p> <p>(委員) 資料1の72ページ、「地域」という言葉が、「エリア」を指すのか「地域住民」を指すのか分かりにくいので、言葉の整理をしてほしい。</p>
--	---

(委員) 市内で民間業者が子どもを預かるといったサービスを行っているところはあるか。

(事務局) ベビーシッターのことを指すが、市内にはない。

(委員) 資料1の34ページ、「学校支援員の配置等を検討する」とあるが、これは特別支援学級のことか、それとも普通学級のことか。

(委員) 両方になる。特別支援学級で、子供を支援するケースが多いが、普通学級で勉強していることもあるので、そのような子どもが普通学級で、流れに乗って勉強できているかというあたりを寄り添って支援する必要もある。

(委員) 資料1の73ページ、関係機関等との連携で「学校」との連携も記載してほしい。

(委員) 資料1の42ページ、一時預かり事業で「幼稚園」という言葉が抜けている。

(委員) 潜在保育士の掘り起こし事業で、週20時間未満の労働時間で、働けるような環境を作ればいいのか。

3 その他

(事務局) 今後のスケジュールについて、次回は12月26日(木)に会議を開催したい。次回の会議の前に「量の見込み」と「確保の方策」を示したい。